



幸せな贈り物

みじめな人生 - どのように思いますか？

みじめな人生の晩年 大企業の建設会社の現場監督で、家より工事現場でさらに多くの時間を送っていた男の人がいた。ソウル江南(カンナム)の有名な総合病院からアパート団地など、彼に手を経て完工された建物が多くあった。1998年、シンガポールへ発ち2年が過ぎるころだった。会社の幹部との酒の席で「もう2年だけいてくれるか」と提案されるようになった。砂をかむような食事が嫌いで、家に帰る日を指折り数えていたので、幹部の提案はうれしくなかった。イさんは、建物の完工より家族にもっと会いたかった。お酒ゆえに頭はふらふらして、判断が揺れる状態だった。しかし、すぐに考えを変えた。残っていれば、そえだけお金をもっと稼ぐことができたからだ。結局、もう2年が過ぎて、ソウルに帰って来た。空港に出迎えにくると言っていた妻が見えず、頭を深く下げた娘が父を迎えた。暗い娘の表情が、不幸を暗示していた。家に戻ったときは、すべてがめっちゃめっちゃになっていた。10億ウォンを越えるすべての財産から、家屋の権利証書まで何も残っていなかった。義理の兄のギャンブルですべての財産をなくしてしまっていたのだ。ギャンブルへの出入りがひんばんになって、義理の兄は、すべての家族を裏切った。イさんは、一番信じていた息子に通帳を預けていた。その息子を誘ってギャンブルをして、それゆえ、家族は散り散りになってしまったのだ。イさんの義理の兄は、40億ウォンを越える借金をして、ヨーロッパに逃げて行った。家屋の権利証書まで譲り渡した息子は、罪悪感に苦しめられて神経衰弱になり病院に入院した。実家のことで争いになった娘夫婦は離婚直前まで行っていた。その渦中にイさんの顔を見る自信がなかった妻は家を出て行った。家族の一人の失敗ですべての家系に不幸がやってきて、災いが押し寄せて来たのだ。優秀だった国外建設監督のイさんは、いつのまにか、家がない浮浪者の身分になっていた。家系が減びて3年が過ぎて、妻の便りが聞こえてきた。便りを聞いて走って行ったときは、すでに火葬が終わった状態だった。自ら命を終えた妻の最後を見て、危なかったイさんの心も崩れた。「最初の計画どおりに2

年だけにして帰ってくれば、何も事は起きなかっただろう。みな私が悪かったのだ。だれを恨むだろう」インタビューしている間、取り戻すことができない後悔を繰り返した。イさんの目は赤くなっていて、声は細かく震えていた。2005年11月17日。イさんは、その日を忘れることができないと言った。体と心が絶望に落ちた日。イさんの心に強く入ってきた一つのことばがあった。死のう。イさんは山の絶壁を探して身を投げた。しかし、決心したようには死ねなかった。

いったいなにが人生をこのようにさせたでしょうか。脱出口はないでしょうか。孤独とむなしさ、そうとうつを行ったりきたりする状態の両極性障害症の人がいました。二回も自殺を試みたこの人は、「キリスト」に出会ったあと、人生が180度変わってしまいました。その人の人生を一気に変えてしまった「イエス・キリスト」いったい、その方はどんな方なのでしょう。

かならず分からなければならない霊的問題 聖書には、人間は霊的な存在であると明らかにしています。人間はかならず神様に会わなければならないように創造されました。ところが、人間が神様を離れてしまい、すべての問題が発生するようになったのです。神様を離れた人間は、サタンの手掌握されて、苦しみを受けるようになり始めました。その問題が霊的問題です。原罪です。私はなにも間違ったことをしていないのに、繰り返し起きる問題が霊的問題です。そのあとに続いて、精神問題、肉体的な問題、家庭問題、来世の問題、次世代の問題がくるようになります。このようにさせた張本人が、サタン(Satan)という霊的存在です。サタンという言葉は敵対する者という意味で、サタンのギリシャ単語であるダイモーンは、(デビル、デーモンの原語で、邦訳は悪魔)という言葉は、仲たがいさせる者という意味です。サタン(悪魔)は神様に敵対して天から追い出された存在で、人々を誘惑して神様に敵対させ、人々の間を仲たがいさせて人間関係を破壊します。また、サタンの手下がいるのですが、それらをさし

て悪霊、あるいは、汚れた霊、惑わす霊と言います。このサタンが偽りの父で、滅ぼす者なのです。人間はこのサタンの権威に勝つことができないので、神様はキリストをこの世に送ってくださると約束してくださいました。

キリストはどなたですか キリストという言葉は、本来「油を注がれた者」という意味です。

旧約聖書時代には、祭司、預言者、王を任命するときに、頭に油を注ぎました。祭司は人々の罪を神様の前に持って行って礼拝するようにした人です。預言者は神様に会うように道を示す人です。王は権威を持って国を治める人のことです。

キリストのすべての条件を満たされた方が、この世にただ一人だけ来られたのですが、それがイエス様です。ですから、罪のないキリストが、人間の罪を贖うために、十字架で死なれました。キリストだという証拠で復活され、サタンの権威を打ち砕かれました。聖書に約束されたとおり、この世に来られ、十字架で血を流して死なれ、3日後に復活されることによって、神様に会う道になってくださいました(ヨハネの福音書 14:6)。すべての罪とのろい、生年月日による運勢と運命から解放する道(ローマ人への手紙 8:2)、サタン(悪魔)のしわざを打ちこわし、その手に捕まって奴隷になっている者たちを解放する道になりました(ヨハネの手紙第一 3:8、ヘブル人への手紙 2:14-15)。イエス・キリストを信じて、自分の心に受け入れる者には、神様の子どもになる権威をくださると約束してくださいました。「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。(ヨハネの福音書 1:12)。

神様の子どもになれば、どうなるのですか 「神様は目に見えない聖霊で、ともにおられます(コリント人への手紙第一 3:16)どんな環境の中でもあなたのすべての生活を導いてくださいます(ヨハネの福音書 14:26)。すべてのことをご存知で、すべてのことをなさる神様があなたを導かれるので、これより大きい祝福がどこにあるでしょう。神様の子どもになったあなたは、神様に祈れば、聖霊に満たされて答えを受けるようになります(使徒の働き 1:8)。神様がくださる力と能力で人生を生きるほど心強いことはありません。そして、神様の子どもになる瞬間から今まで、あなたを運命の中で閉じこめて失敗させていたサタンの勢力に勝つことができる権威をくださいました(ルカの福音書 10:19)。また、私たちがいるすべての現場に主の御使いを送って守ってくださり、祝福の門を開けてくださいます(ヘブル人への手紙 1:14)。これは、国王や大統領のスケジュールにしたがって、秘書と警備員が行って準備するような原理です。そして、永遠な天国の国籍をくださいました。これは永遠な天国の祝福はもちろんのこと、この世でもその祝福を味わうことができるということです(ペリピン人への手紙 3:20)。それだけではなく、イエス・キリストを知らずに苦しんでいる人たちと、家庭と家系を生かすもっとも価値ある人生を生きるようになります(マタイの福音書 28:16-20)。これがあなたに向かった神様の願いです。





重職者がしなければならない 伝道企画

成功の秘訣 アメリカのカーネギー工業大学の卒業生の中で成功した人々の成功の秘訣を調査してみました。彼らは異口同音にこのように話しました。「専門知識や技術は成功するのに 15 パーセントの影響しか与えません。残り 85 パーセントは、良い人間関係にあります」特に彼らは人間関係のために 3 つの訪問をよくするのですが「口の訪問」と「手の訪問」、「足の訪問」です。「口の訪問」は、ほめることによって、人の心を軟らかくして勇気を与えることで、「手の訪問」は手紙を書いて率直な愛の心を伝えることで、「足の訪問」は相手が病気になったり、困難に出会ったときに訪ねて行くことです。もう一度、言うなら成功した人々は周辺の人々に、当然なこと、必要なこと、絶対的にしなければならないことを知っている人たちです。成功したいなら、先に感動をあたえる人にならなければなりません。

伝道企画のモデル 契約を持った重職者は、この時代の伝道のモデルで、成功のモデルです。それで一生忘れてはならない基本の方法を知っていなければなりません。最初は、当然のことをよくすることです。「私が当然のことをすべきだ」という意識を持つことを当然性と言います。当然のことをしていれば、必ずしなければならないことが見えてきます。これを必然性と言います。この二つのことをしていれば、すべきことと、しなければだめなことが見えるようになります。これ絶対性です。重職者は、この三つの基本を持って、新しい家族が定刻の祈り、伝道、定刻の勉強、定刻の集い、定刻フォーラムを通して恵みを受けて、祈りの答えを受けながら、使命者として立つように現場で手助けしなければなりません。これが地教会です。そして、教師ならば教師、医者ならば医者、教会の中の専門家に、福音、祈り、伝道を味わえるように、定刻祈り、定刻証人、定刻キャンプの祝福を体験するようにさせてあげなければなりません。特に私たちの次世代に入学と卒業の時刻表に従って、正確に福音を伝えてあげて、講壇のメッセージと神様が自分にくださる裏面契約を握るようにしてあげれば、すばらしい伝道の門に変わるようになっています。それで、私たちは次世代に神様のみことばを暗唱して、その中で今日の伝道と今日の祈りを見つけるように助けるのです。重職者がこういう伝道弟子としてすべての地域に立って、社会、国家に奉仕して、福音を伝える伝道運動を起こすことが重職者伝道企画なのです。

神様の子どもになる受け入れの祈り

愛の神様、私は罪人です。イエス様が十字架で死んで、復活されることによって、私のすべての問題を解決してくださったキリストであることを信じます。今、私の心の扉を開いて、イエス様を私の救い主として受け入れます。今、私の心の中に来てくださって、私の主人になって、私を導いてください。これから、神様の子どもになった祝福を味わいながら生きるようにさせてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子ども五つの確信

- 1 **救いの確信**：イエス・キリストを信じ、受け入れた私は、神様の子どもになって救いを受けました(ローマ 8:15~16、Iヨハネ 5:10~13)
- 2 **祈り答えの確信**：神様の子どもはイエス・キリストのお名前前で何でも求めることができ、神様はみこころ通りに必ず答えてくださいます(ヨハネ 15:7)
- 3 **導きの確信**：神様は聖霊で私の中におられ、あなたのすべての人生を治めながら導かれます(ヨハネ 14:26~27、箴言 3:5~6)
- 4 **赦しの確信**：私のすべての罪はイエス・キリストのあがないの血の力で解決され、神様はだれでも罪を悔い改めれば許して下さいます(Iヨハネ 1:9、ローマ 3:24)
- 5 **勝利の確信**：救われた私は、世の中に勝たれたイエス・キリストによって、どんな問題の中でも信仰で勝利することができます(ローマ 8:31~37、Iヨハネ 5:4)

神様の子ども毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに、福音を邪魔して困らせるすべてのサタン勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

そして、私の生活を通して、イエス様がキリストであるということがあかしされ、私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できま

すように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

フィジー(Fiji)の 待つこと



イラスト_ユン・スルギ

<カゴバ>という歌の歌詞に出てくる青い水、南の海はあこがれの対象だった。しかし、年をとってその海に行くようになった時、その詩から受けた感動を生き返らせることは難しかった。時間が流れ、福音を聞いて、伝道を心に抱いた。そのときから、新しい期待が生まれた。ふとヤシの木が茂った南太平洋の青い島に行きたくなったのだ。私のその思いは、しばらくして、伝道者の歩みとなった。南太平洋の青い島、フィジー(Fiji)に飛行する中、夜空に南十字星が目に入ってきた。なぜ、オセアニアの国旗に南十字星があるの分かったように思う。そのかたちを見ると、もう一度、不思議な感情に捕らわれた。その感情をいだいて、ナンディ空港にあり、首都のスバに向かった。行く途中の道の店のそばで、箱の上に座っている青年に出会った。青年は小さくて青い革の本を抱いていた。近くに行ってみたら聖書だった。深い目つきの青年は、聖書を抱いていたけれど、平安には見えなかった。どれだけ読んだのか、聖書はほつれて、ぼろぼろになっていた。いっしょに行った伝道チームは青年に宗教と真の倫理、真の信仰について説明してあげた。私たちの言葉を聞いて、彼は、苦しい生活を支えていたので、とても飢え渴いていた。自分の必要にしたがって、みことばを求めた青年は、福音を聞いて恐れを感じた。私たちは、青年の心の中の恐れを崩してくださいと祈った。そして、すぐに最高の祝福である神様の子どもについての説明をしてあげた。「私たち人間は、どんなに努力して、あがいても、終わることなくやってくる問

題に対する答えを見つけることはできない。それは、人間が神様から離れたからだ。神様を離れた人間は、どんなに努力しても、苦しむしかない」珊瑚の島を吹きぬけて、青いやしの木を越えてくる青い波の風が、私たちのそばを過ぎるとき、その青年は深く息をついた。「そのとおりです。私はその方が、私に來られことを知りました。だれかが答えを持ってくる人がいるようでした」確信に満ちた青年のことばが終わって、私たちは、もう一度、ことばを続けた。

「どんな宗教も、人間の心を慰めてくれることはない。私たちの問題を解決するのは『ただイエス・キリスト』だけだ」時間がかかりたつたようだったが、私たちは、この出会いのために、地球の反対側にきたのだ。神様はひとりの青年を生かそうと、伝道者をそこに送られたのだった。たましいを生かし、キリストの愛を伝え、幸いな救いがなされるようにされるその恵みに、なによりも感動があふれる。神様の恵みの中で待っていた青年のように、今、あなたにもどんなことを待っているのだろうか。多くの時間、遠い距離を回っていったその出会いを考えながら、今日も切なる祈りをささげる。

チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

*相談したい方はこちらまでどうぞ